

平成五年一月三日（日）

郷土研究会資料

第一九七回 史跡めぐり

深川七福神を訪ねて

越谷市郷土研究会

第一九七回 史跡めぐり

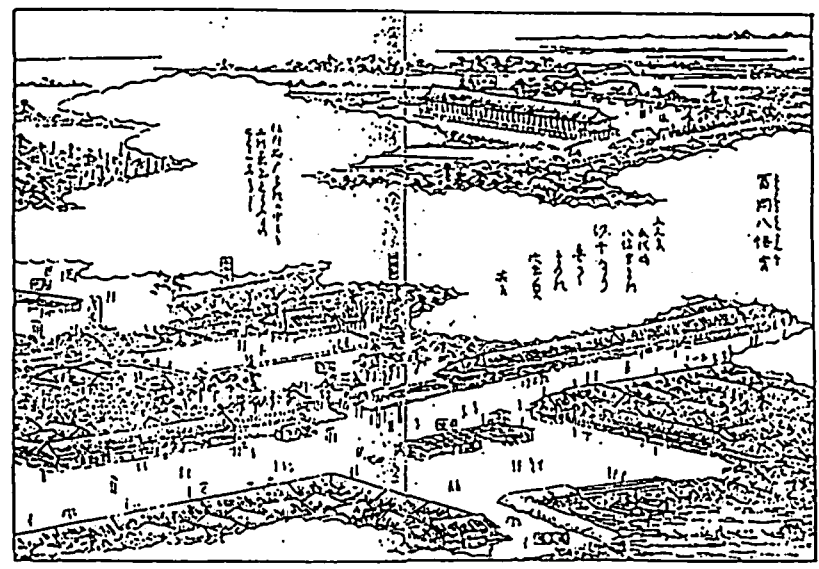
日時 平成五年一月三日(日)  
 集合 越谷駅東口前 午前八時五〇分  
 行先 深川・七福神を訪ねて

コース 越谷駅⇨北千住駅⇨茅場町⇨門前仲町駅

- ・富岡八幡宮 (恵比寿)
- ・冬木弁天堂 (弁財天)
- ・心行寺 (福祿寿)
- ・円珠院 (大黒天)
- ・竜光院 (毘沙門天)
- ・深川稲荷神社 (布袋尊)
- ・深川神明宮 (寿老神)

案内者 副会長 山田政信  
 参加費 一、五〇〇円

主催 越谷市郷土研究会  
 (含む交通費・資料・保険料・その他)



『富岡八幡宮』

五元集 永代船 八幡宮奉納  
 汐干なり尋てまゐれ次郎具 其角  
 社内拍戸多きか中にも二軒茶屋とよ  
 ぶものことに名高し。

## 【富岡八幡宮】 恵比寿

寛永年間に永代寺を開いた長盛上人が、これを別当寺に新開地の鎮守社として岩清水八幡を勧請した。この神社の祭礼は、日枝神社・神田明神とともに、江戸三大祭りとして有名である。

江戸の相模興業は、寛永元年（一六二四）に初代横綱明石志賀之助が四谷の笹寺ではじめたと伝えられるが、貞享元年（一六八四）、富岡八幡境内で勧進相模を晴天八日を限り興業したというのが確実なはじまりで、寛永三年（一七九一）両国回向院に本場所が移されてからも、明治になるまでここで花相模がつづけられていたという。境内には『横綱之碑』『深川力持之碑』その他多数の歌碑・句碑等がある。

## 【冬木弁天堂】 弁財天

冬木という町名は、宝永二年（一七〇五）茅場町から冬木家がここに移ってきたことによる。冬木家は、もと上田氏と称し、承応三年（一六五四）、上田直次が上野国から江戸に出て冬木屋と称し茅場町に住み、材木豪商となった。その時竹生島の弁財天の分霊を祀った。

宝永二年三代目冬木弥平次がここに移ったとき弁財天も移したのが冬木弁天堂である。関東大震災で全焼するまでは、樹木の生い茂った広大な境内であったという。

上野の東京国立博物館に『白地秋草模様小袖』という名品がある。これを一名『冬木小袖』という。それは尾形光琳が世話になっていた冬木弥平次の妻女のために描いたものであるという。

【心行寺】 福祿寿

元和二年（一六一六）八丁堀寺町に創立。寛永一〇年（一六三三）現在地に移る。

五重石塔………高さ一メートル、梵字を刻み、元享四年（一三二四）三月二四日とあり、室町時代のもので、江東区でもっとも古いものである。

川口 直の供養塔

伴伝の墓………屋号近江屋・寛永年中から蚊帳・麻布・畳表類を商う。歴代の墓・従業員の墓あり。

【円珠院】 大黒天

高峰筑風の墓………筑前琵琶の創始者である高峰筑風の墓で、女優の故高峰三枝子はその娘。

【竜光院】 毘沙門天

雲光院塔頭。慶長年間に創立された。

【深川稻荷神社】 布袋尊

この付近の旧町名、西大工町と称したので、西大稻荷ともいう。

寛永七年（一六三〇）創立。付近一帯は小名木川沿いの所で、江戸初期から発展した。

【深川神明宮】 寿老神

摂津大坂からきて、深川村を開拓した深川八郎右衛門は、慶長元年（一五九六）深川村の鎮守として、伊勢皇太神宮の天照大神の分靈を祀った。

戦災では御内殿だけが焼失を免れた。

境内に十一社の末社を合祀している。

村名がなかったが、徳川家康が狩にきて地名をたずねた。

地名もないと答えたところ、姓を村名にするように言われ、深川村と称したという。

# 深川七福神めぐり

1 恵比須神  
 愛敬富財

富岡八幡宮

2 弁財天  
 芸道富有

冬木弁天堂

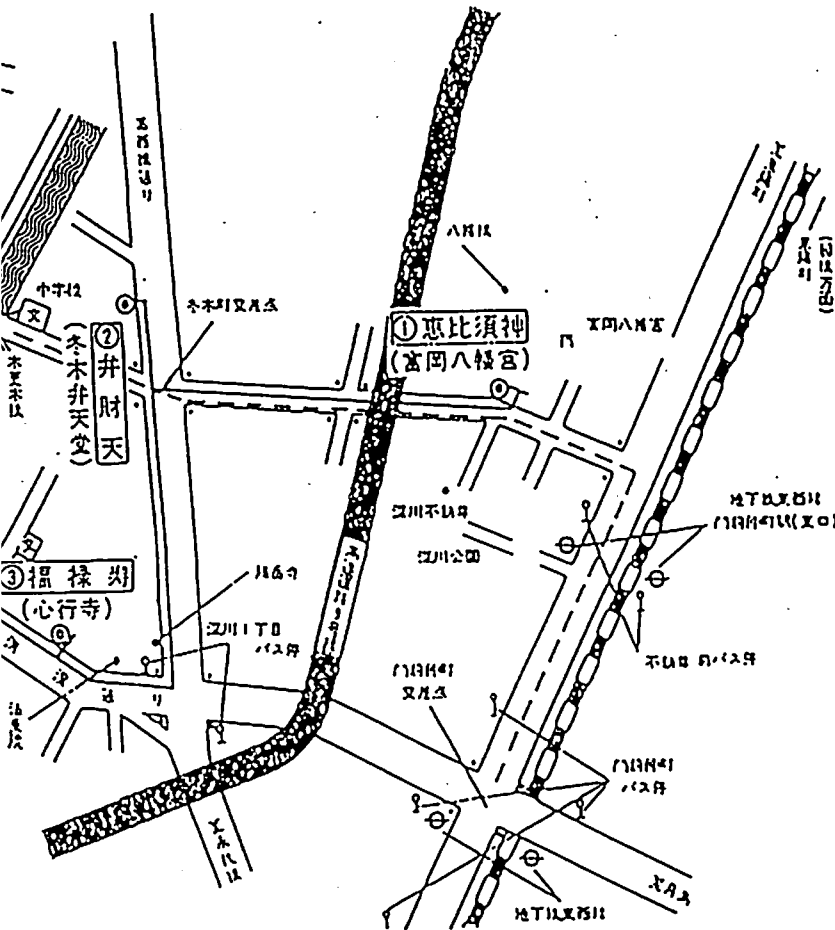
陽岳寺

三角屋敷跡

法乘院

3 福祿寿尊  
 人望攝徳

心行寺



7	6	5	4
深川神老明宮	深川稲荷神社	毘沙門院	円珠院
寿老神	布袋尊	沙門天	大黒天
延命長寿	清籠度壺	勇氣授福	有福蓄財
万年橋	雲光院	深川江戸資料館	採茶庵
	靈巖寺		

### 深川七福神 案内図

—— 深川七福神コース  
 - - - 歴史と文化散歩コース

